レッスン：SPA.NO.23

テーマ：現在のパーソナリティーの現れ

SPA 23/KE6/5PYRM/DOC

私の兄弟・姉妹たち、

スピリット、光、火の子供たち。私たちはいつも主、絶対、主の聖性に抱かれています。

過去に私たちは現在のパーソナリティーについてたくさん話してきました。たとえ現在のパーソナリティーが**生**を現していなくても、それは生の結果であり、生の現象であり、生の反映である、と述べてきました。

私たちはまた生の現象の実存の諸世界について話しました。また現在のパーソナリティーとしての人間は実存の諸世界、つまりいわゆるノエティカル界、サイキカル界および物質界における現れであると述べました。現在のパーソナリティーのための三つのヘブンはは実際にはアイコンであり、人間はインナーセルフ（内なる自己）について完全に無知のなかにいます。努力すべき目標は、現在のパーソナリティーが生(Life)の似姿を現すようになることです。

生の主な特質の一つである多様性（多数性）についてもたびたび述べてきました。絶対存在は一つなのですが、それは多様性というステートにあり、絶対存在というワンネスのなかには無数の聖なるモナドがあります。

さらに、いわゆる魂のセルフ・エピグノシスの多様性についても述べました。魂のセルフ・エピグノシスとは存在の諸世界、つまり元型、イデア、法則、原因の諸世界（それらは四つのヘブンの諸世界です）のなかで人間のイデアを通過した生の現れです。また、生の現象によって、**特にサイコノエティカル界において表現される多様性についてもある程度まで話してきました。人間がそれらの諸世界にいる間、人間は他の多くのパーソナリティーを示す多くの同一体を創造することができる、と述べました。**

人間が夢のなかにいるとき、その人間はその夢の出来事のなかで自分自身の環境を創造し、多くのパーソナリティーを創造する、とも述べました。それらのパーソナリティーたち（＊夢のなかのパーソナリティーたち）は、それらが意味するパーソナリティーたちの同一体であり、それらの同一体はそれぞれそれが示すパーソナリティー（＊人間のこと）の意識と自動的に結びついている、と述べました。それは**生それ自体**が**生**の現象に与えた能力の一つです。

私たちはまた自己実現に到達した人間の能力についても述べ、**そのような人間は超意識的に自分自身のパーソナリティーの同一体をたくさん創造することができ、それらの同一体をどれほど多く創造しようとも各同一体は完全である**、と話しました。元の、オリジナルのサイコノエティカル体と全く違いがありません。その人は自分自身を多数、多様性として現しているのです。例えば、ジョンという人間がすべての同一体にいるのです。もはや同一体とは呼べず、ジョンの諸体、マリアの諸体などと呼ぶことができます。その人が創造する同一体の数に制限はありません。

勿論、それらの同一体は目的があって創造されます…実存の諸世界、生の現象の諸世界において同胞の人間を助けるためです。そして、例えば一つの同一体がやるべき仕事（そのためにその同一体が創造された）を完遂すると、自動的にその同一体は他の同一体に同化します。そして投射されたすべての同一体たちが全部それぞれの仕事を終えると、元のオリジナルのサイコノエティカル体に同化して一つとなります。このような仕事は、現在のパーソナリティーが肉体のなかにあって、肉体を通じて自分自身を現している時でも行うことができます。

それでは肉体にいる一般の人間の現在のパーソナリティーについてはどうでしょうか？生の現象（としてのその人）は多様性、多数性を表現することができるでしょうか？生の現象としての人間は主の似姿を表現しておらず、生の特質をあまり表現していません（ゼロとはいわないまでも）。

しかし、生の現象としてであっても、私たちの内側には生のスパークがあって、それが現在のパーソナリティーを活性化させています。ですから、人間の内側には生がありますが、残念なことに現在のパーソナリティーが表現すべき生の特質を人間は意識的には現していません。というのも、意識、いわゆる意識のセルフ・エピグノシスが制限のなかにあるからです。

それでは、現在のパーソナリティーが無意識的にでも多様性、多数性の能力を現すことは可能なのでしょうか？答えはイエスです。人間はそうと気づかずにあらゆる瞬間にその能力を現しています。以前のレッスンで述べたのと全く同じで、生の現象として人間は考えている時、空想している時その他、無意識的に五つの超意識を使っています。私たちが記憶から何かを思い出している時も、五つの超意識を使っています。

それでは人間はどのようにして無意識的に多様性、多数性を現しているのでしょうか？過去に多くのレッスンで述べたように、私たちが考えている時には二元性の結果として、問いと答えの結果として、無数のエレメンタルを作り出します。

それらのエレメンタルについてはどうでしょうか、それらは何を示しているのでしょうか？それらのエレメンタルは、何であれそのパーソナリティーが考えていること、フォーカスしていることを示しています。それらのエレメンタルは多くの様々なものを示していますが、また異なったいろいろなパーソナリティーを示すこともあります。私たちがある人について考えている時、実際私たちはその特定の人の同一体を作っているのです。その同一体を創造した瞬間、ただちにそのエレメンタルはそれが示し、意味している（＊実際の）パーソナリティーと結びつきます…たとえそのパーソナリティーが物質のバイブレーションの中にあっても。

ですから、サイコノエティカル界で起きるのと同じように物質界でも同じことが起きます。もし私たちがある建物について考えると、その建物が築かれるのでしょうか？そうです、それは超物質およびサブスタンスとしてのマインドのバイブレーションによって築かれるのです。五つの超意識を使っている誰かにとって、その建物はそこにあります。彼はその建物および何であれそのパーソナリティーが創造したものを見ることができるのです…たとえそれらを創造したそのパーソナリティーはそのことを知らなくても。一人あるいは多くのパーソナリティーを示すそれらの同一体は、それらの同一体が示し、意味している（＊実際の）パーソナリティーに影響を与えることができるのでしょうか？それらの同一体は直ちに（＊実際の）パーソナリティーと結びつきます。同一体の意識はその同一体が示し、意味する（＊実際の）パーソナリティーの意識と全く同じです；それは全く同じように振る舞い、全く同じ思考・行動の仕方を現します。

多様性、多数性はそれを創造したパーソナリティーによって表現されますが、多様性・多数性はまた同一体が示し意味するパーソナリティーによっても表現されるのです（そのパーソナリティーはそれに気づかずに）。ですから多様性・多数性の能力については二つの表現があります。それでは「そのパーソナリティーは誰か他の人が創造した同一体によって影響されることがあるのか？」という質問に戻りましょう。

ある程度まではイエスです。何故？前にその意識は同じである、と言いました。そのパーソナリティーはどのようにして影響され得るのでしょうか？多くの人々がある特定のパーソナリティーにフォーカスし、考えています；それぞれの人が自分の気づきのレベルに応じてその特定のパーソナリティーについて理解することでしょう。ですから、人々が創造したものは直ちにそれが意味し、示す（＊実際の）パーソナリティーと結びつきますが、それら創造された同一体はまたそれらの人々それぞれの理解の色をも運ぶのです。

もし非常に多くの人々がある特定のパーソナリティーにフォーカスすると、その特定の人に関する何百、何千、何百万という多くの同一体が創造され、同時にそれらの同一体にはその同一体を創造した人の理解の色が伴っています。ですから、一つの同一体が与える影響はとても小さいものですが、多くの同一体が与える影響はかなり大きなものとなります。特に様々なカラーの同一体が集まると。それらはその特定のパーソナリティーに混乱を生み出すこともできます。

真剣な真理の探究者は決してフォーカスすべきではなく、またパーソナリティーたちに魅せられるべきではない、と何回も述べてきました。なぜそう言ったのでしょうか？なぜなら、もし私たちがフォーカスすると…たとえネガティブなものを送らなくても…その特定のパーソナリティーにエネルギーを与え、その人のエゴを刺激することになるのです。もし人々がある特定のパーソナリティーにフォーカスすればするほど…その動機が何であれ、動機が良くても悪くても…それはその特定のパーソナリティーにとって良い結果にはなりません。だから、**例えばある国で高い地位についている人が初めは国民のことを思い、純粋だったとしても、国民がその特定の人物にフォーカスするようになってしばらく経つとその人物は別のセルフを表現するようになります。なぜならば、その人のエゴが刺激されたからです。**

私たちがアガピ、愛を現すときも同じようになるのでしょうか？有り難いことに、そうはなりません。私たちがある特定の人に愛を表現すると、それはその特定の人にとって良い方に働きます。しかし、もし私たちがある人の仕事を激励、励ます時、それはアガピではなく、それは魅惑になり、それらは相手を喜ばせるものとなります。というのも、その特定の人が実際に私たちの低次の興味を支えることになるからです。低次の興味というとき、それは物質的興味です。しかし、私たちが誰かを思いやり、愛、アガピの結果としてその人を思いやると、その相手に影響を及ぼすことはありません。その人を暖かく包むことになります。

真理の探究者として私たちは決して人々に影響を及ぼそうとすべきではありません。なぜなら、人々に影響を及ぼすと言うとき、それはその人のプライベートな個人的意思に干渉することになるからです；そのことを心に留めておくべきです。

それでは自分の子供を励ますのはどうでしょうか？自分の子供に「えらいわね、よくできたわね」と言い、他人に向かって自分の子供がどれだけ素晴らしいかなどと話すと、そのような態度は子供のためになるでしょうか？ノーです。それもまたエゴを刺激することになります。確かに私たちは自分の子供たちを抱きしめ、子供を導きますが、大人になって何になるかについては子供の自由意思にまかせるべきです；アドバイスだけにすべきです。これは自分の子供だと言うとき、その瞬間からそれは自分のものではありません。なぜなら、全ての子供たちは私たちのものであり、私たちの愛で全ての子供達を平等に抱きしめるべきだからです。

エゴおよびエゴイズムという言葉を使いましたが、それは同じ意味だと思いますか？小文字のエゴ(ego)とエゴイズムは同じ意味です。特に現在のパーソナリティーが無知のなかにある間は。

過去に私たちは大文字ではなく小文字のエゴ(ego)で現される二元性がある、と述べましたが、実際そうなのでしょうか？現在のパーソナリティーは二元性だけを表現するのでしょうか？細部を見てみれば、実際にはそうではありません。実際、表現されるのは二元性ではなくある種の三位一体、三つ組です（絶対英知・絶対善・絶対パワーという生の三位一体とは異なる）。無知のなかにいる現在のパーソナリティーのヒポスタシス（＊状態）としての三位一体です。

それはどのように表現されるのでしょうか？小文字で始まる二つのエゴがあります。一つは思考・行動の仕方を現す部分で、それは現在のパーソナリティーの現れです。もう一つはそのなかに大文字ではじまるエゴのスパークを含んでおり、それは過去に述べたように罪の意識としてそれ自身を表現しており、それが啓発に向けて私たちを引き寄せ、引っ張るのです。

ですから、二つの小文字のエゴがあります；問いと答えとしての二元性ではなく現在のパーソナリティーのヒポスタシスとしての二元性があります。問いと答えはそれら二つのエゴのそれぞれの中にあります。私たちがやるべき努力とは、ガイダンスを通じて小文字ではじまる一つのエゴをもう一つのエゴのなかに同化することです。もし啓発に向かおうと望んでいる現在のパーソナリティーが、現在のパーソナリティーの真の現れであるもう一つの部分と戦おうとすると、残念ながら勝者はその人がフォーカスしているバイブレーションのなかにある部分です。その部分はその人自身の現れのバイブレーションとしての同じバイブレーションのエレメンタルによって強められます。無知のなかにいる時、最初はその部分は他の部分よりもずっと強いです。ガイダンスを通じて私たちはそれを同化する必要があります。

私たちがその部分を同化したとき、それはエゴイズムが消滅したという意味でしょうか？違います。繰り返しますが、もしその部分を同化する以前にエゴイズムと戦おうとするなら、エゴイズムが勝つでしょう。低次のセルフが勝利者となるでしょう。私たちはそのエゴの部分が同化されるまで待つ必要があります。それはつまり今や現在のパーソナリティーが、意識的意識のセルフ・エピグノシスとしての意識を表現しているということを意味します。実際その時、そのパーソナリティーはそのタイプの意識を完遂し、いわゆる超意識のセルフ・エピグノシスを表現し初めます。その時初めて現在のパーソナリティーはエゴイズムの様々な局面と戦い、殺し始めるのです。

Page4

ですから、実存の諸世界、生の現象の諸世界において、二元性はさまざまな形で表現されています。以前のレッスンで、全てはマインドであり、マインドを通じて様々なイデアを通した生の表現がある、と述べました。

**生の海**(Ocean of Life)についてはどうでしょうか？創造の諸世界のなかにあるためには、生の海はマインドを必要とするでしょうか？答えはノーであり、しかもその反対です。マインドはそれが活性化され、形を帯び、宇宙の創造のためのヒポスタシスを帯びるためには生の海を必要とします。以前のレッスンで、この生の海とはいわゆるエーテル・バイタリティーである、と述べました。しかしまた、創造の諸世界における生は絶対存在のロゴス的部分から来て、活動している、と述べました。私たちはその現れを汎宇宙的キリスト・ロゴスと呼び、それは絶対存在のロゴス的本質です。

ですから、生の海となっている汎宇宙的キリストロゴスとしてのキリストロゴスがあり、それが創造の諸世界で全てを活性化させ、その特質の現れとは絶対善、絶対愛です。それは汎アガピ、絶対愛であり、それは創造界のあらゆるものを包含し、包んでいます。そしてその現れは別の法則、本質を通過して表現されます。もう一つの法則、それは同時にPan-Ayiaと私たちが呼ぶ絶対存在の本質の中にあります。Pan-Ayiaは創造界におけるすべてのヘブンの大きな母であり、それは絶対存在の本質のなかの法則であり、その法則のシンボルは八芒星です。創造界におけるいかなる現れもそこに近づくことは不可能です。

ですから、汎アガピがあり、それは生であり、創造界にあるあらゆるものを活性化し、あらゆるものはそれらの生のバイブレーションによって包含、包まれまています。あらゆるものと言う時、現在のパーソナリティーの肉体も含まれます。マインドはこの生の海によって活性化されています。

マインドの海の中で（生ではなくマインドの海です）、同時に様々なアークエンジェルのオーダーの働きがあります。何回も繰り返し述べてきましたが、その働きのためには生の海が必要です。なぜなら、何であれ現在のパーソナリティーがマインドの上に作りだしたダメージを修復するために、アークエンジェルたちは生の海から取ってくるからです。現在のパーソナリティーとして私たちは、マインドによって築かれた私たちのヒポスタシスに多くのダメージをもたらしているからです。そしてアークエンジェルたちはエーテル・バイタリティー、生の海を使うことによって、それらのダメージ、傷を修復しています。

ですから、ロゴスおよび聖霊、つまり創造界における意識の現れは協同作業を行っており、真理の探究者の仕事の一つは、絶対存在のそれら二つの現れ、生の海、絶対愛そしてイデアにおける聖霊的現れ（なぜなら、聖霊的現れはあらゆるアークエンジェルのオーダーとしてイデアに関係するからです）と協力して働くことです。

さて、私たちが知っているイエス・キリストロゴス、それは何を意味しているのでしょうか？何回も繰り返し述べたように、それは愛、天の人、人間のイデアの元型を意味します。それは現在のパーソナリティーが自己実現に到達する時に私たちが現すべき元型なのでしょうか？違います。魂のセルフ・エピグノシスの自己実現はいわゆる二番目の磔に到達したときに表現されます。それは火の洗礼が完全に終了し、スピリットの洗礼をスタートする時です。それに関しては私たちは何も知りません。過去に繰り返し述べたように、このポジションから先については、私たちは何も知ることができません。絶対存在のアウタルキーのなかで他のいかなる実体にどんなに同調しようとしても、私たちはそれを理解することは不可能です。それは同調を超えたものであり、他のいかなる“説明”をも超えたものであり、このポジションから先については何も理解することはできません。

ですから、キリストロゴスは宇宙におけるに天の人であり、同時にそれは汎宇宙的キリストロゴスと共にあります；しかし、本質(Nature)のなかの法則、誕生をもたらす法則、私たちがPan-Ayia、聖母…それはつまり宇宙の母なのですが…と呼んだ法則についてはどうでしょうか？歴史的には一つのパーソナリティーが存在し、イエス・キリストロゴス、Pan-Ayia、処女マリアがあります。それは単なる歴史的なものでしょうか、それとも創造界におけるリアリティーに関するさらなる意味を私たちに与えてくれるのでしょうか？

Page5

以前のレッスンで述べたように、子供を産む全ての母親は主を、そして同時に聖霊的現れを生んでいるのです。なぜなら、現在のパーソナリティーとして私たちには生としての主のスパークがあり、生を通じて現される身体は聖霊的現れだからです。なぜなら、それは同時にロゴス的および聖霊的現れという二つの現れによって築かれ、維持されるからです。母親は同時に処女マリアであり、出産する全ての母親は大いなる母(Big Mother)を意味します。というのも、彼女たちは生のスパークを出産するからです。それゆえにこそ、私たちは信念、宗教、人種などが何であれ全ての人々を平等に受け入れ、抱きしめる必要があるのです。なぜなら、実際、私たちは主としての彼あるいは彼女を受け入れることになるからです。

ですから、生の海とはエーテル・バイタリティー（＊エーテルのエネルギー）であり、それは遍在しあらゆるところにあり、それは愛であり、アガピです。しかし、私たちはワークをする必要があります。それによって生の現象の意識がこの海のなかで意識的に泳ぐことができるようになるためです。さもないと、海はそこにあっても意識はそれについて知らないままです。いずれにしても、次のレッスンで再びこの主題に戻ります。現在のパーソナリティーに関してさらに話すことがあるからです。

私たちは常に主、絶対、主の聖性に抱かれています。

**質問：**

質問：あなたは私たちが創造する同一体について話し、それらの同一体がパーソナリティーに影響を及ぼすと話しました。そしてある一人のパーソナリティーについて作られた一つの同一体だけならその影響はそれほど強くないと述べましたね。しかし、ある一人の人が同一体を繰り返し何回も創造する時には、それはかなり強力になるのではないでしょうか？

Ｋ：そのとおりです。しかし、その特定のパーソナリティーの気づきのレベルは短期間ではそれほど変化しません。私たちが同じ一人のパーソナリティーを意味する多くの同一体を作り出すとき、もしそれらが同じバイブレーションから成っているなら、それらは自動的に一つとなります。

質問：創造された同一体は同じパーソナリティーに影響を及ぼすが、それは気づきのレベル、思考・行動の仕方のレベルによって色づけされる、とあなたは話しましたが…。

Ｋ：勿論、意識ははるかに偉大であり、その現れは影響よりも強いです。影響よりも現れの方が強いと言いましたが、それは気づきのレベルによって違います。もしある同一体が気づきが非常に高い、より高いレベルのバイブレーションを放つある人間によって生み出された場合、それより低い人への影響はより大きくなります。純粋な動機からスタートしたにもかかわらず、最終的にはその国を破滅へと導いたリーダーの例はたくさんあります。歴史を振り返れば、そのような例はいくらでもあります。何故でしょうか？パワーの影響、それらの人々がその国の国民からフォーカスされたことによる影響のためです。それゆえに私たちは決してパーソナリティーにフォーカスすべきではありません。なぜなら、もしフォーカスするとその対象となるパーソナリティーをスポイルし、駄目にしてしまい、結果的にそれが私たち、および他の人々に影響を及ぼすからです。

質問：しかし、半神つまり独裁者のポリシーとはまさにそれではないでしょうか。そのような人の写真はあらゆる所、マスメディアその他に溢れています。それはあたかも半神であるその人がそのような追従、おべっかを欲しているかのようですが。

Ｋ：そうです、残念なことにそのようなことが起きています。言い換えれば、それはエゴ、エゴイズムを育てる食べ物、エネルギーとなります。

質問：人々と共に働くことが求められる人々にとってそれは困難な問題です。というのも、私たちは常に人々と対しており、特定の顔を差し出しています。なぜなら、私たちは善人であろうとする人間だからです…。

Ｋ：実際にはそうでないのに善人であろうとする人間、それはその人の真の現れではありませんね。それは役者であり、演じているのです。

質問：しかし、例えばあなたがこの人に向かって怒鳴るとします。その時、あなたは適切ではないことを行い、悪い色のついたエレメンタルを作っています。相手に短気、忍耐の欠如を示し、あなたは悪いエレメンタルを創造することになります。その人についての悪い色を創造します…。

Ｋ：それは動機によります。もしそれが愛、アガピの味わいのあるエレメンタルならば、例えあなたがその特定の人に向かってどなっても、あなたが創造したのは否定的なエレメンタルではありません。あなたはエレメンタルを創造しましたが、そのエレメンタルは愛というあなたの色を伴ったその特定の相手の意識の現れとなるのです。あなたが怒鳴ったとき相手があなたをどのように理解するかは全く別問題です。しかし、もしあなたが愛、アガピを現すことができるなら、相手があなたに関して創造する同一体に何を付け加えようとも、その同一体はそれがあなたの意識と結びつくやいなや、それは相手を助ける同一体となるでしょう。相手があなたをどのように理解したとしてもです。なぜなら、相手のバイブレーションはあなたが現らわしたバイブレーションよりも低いからです。

私たちは相手に影響を及ぼすために自分自身のエレメンタルを作るようなことは望みません。相手を導いたり、抱きしめるためにエレメンタルを作ります。影響を与えるということは、他人のプライバシーに入ることであり、相手の自由意思に影響を及ぼすことだからです。私たちは決してそのようなことをすべきではありません。それはマジックとなります。

導き、抱きしめること。もし私たちが誰かを助けたいなら、私たちが何を与えるにしてもそれについて考える必要があります。相手の理解に関する自分のバイブレーションがどこにあるかを知っている必要があり、相手を抱きしめる必要があります。さもないとなぜ、絶対愛なのでしょう。絶対存在は無知の束縛を除去するために私たちに影響を及ぼすことはありません。

質問：エゴイズムを定義してくれますか？

Ｋ：エゴイズムとは現在のパーソナリティーが対象に対して、その対象にとって益にならないことをフォーカスすることです。ヘラクレスとは生の特質をたくさん表現している現在のパーソナリティーを意味します。その時初めてそのパーソナリティーは、そのパーソナリティーのその部分を獲得するために戦うでしょう。大文字のエゴ(Ego)のスパークと共に。それまでは、小文字のエゴは分割されています。それが分割されている間は決してそうしようとすべきではありません。私たちは小文字の一つのエゴを持つべきであり、さもないと戦うことは不可能です。トライしないほうがよいのです。

質問：言い換えれば、もしあなたがエゴを表現しないように努めることによって自分の感情を抑えようとすると、自分のフィーリング、気持ちを抑えることになり、あるいは自分の真の…を表現しないことになります…。

Ｋ：無知にいる間は、現在のパーソナリティーはエゴイズムの現れ以外の何物でもありません。そうです、私たちは特定の瞬間における生のありかたのなかで受け入れられるセルフを現そうとします。しかし、実際には私たちの現れはエゴイズムの表現です。それがどのようにカモフラージュされるかは別の問題です。まずそれについて正直になりましょう。たとえエゴイズムが正しくなくても、とにかく初めはそれは役立ちます。なぜなら、現在のパーソナリティーが他の誰かよりも良いものを表現しようと駆り立てるのはそのスパークだからです。私たちは「なぜあなたは私よりも良く知っているのか。私はあなたよりももっと物知りにならねばならない。あなたよりももっと」と言います。これはエゴイズムの結果です。私の言う意味がわかりますね。それは役に立つのですが、決してそれを刺激しようとするべきではなく、エゴイズムと戦おうとすべきではありません。もし私たちのエピグノシス、知識に従って、やるべきでないことをやってしまったなら、決して戦おうとしないでください。私たちは忍耐を持ち、理解をして、同じ過ちを繰り返さないようにします。

質問：もし繰り返さないように努力するなら、それは戦うのを同じではないですか？

Ｋ：違います。繰り返さないようにすること、それはそれと同じではありません。なぜなら、それに立ち向かうからです。私たちは潜在意識に暗示の言葉を入れます。

EREVNA/SPA23/K6 SPA23/6END